

2013 年度 大学英語教育学会 (JACET) 関西支部秋季大会

日時：2013 年 11 月 9 日 (土) 場所：神戸市外国語大学

2013 Fall Conference of the JACET Kansai Chapter
Kobe City University of Foreign Studies
Saturday, November 9, 2013

招待講演 **言語テストの非透明性のインパクト**

Invited Lecture: The Impact of Nontransparency of Language Tests

講演者：根岸 雅史先生 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院)



略歴：東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。東京外国語大学外国語学部英米語学科を卒業。東京学芸大学大学院修士課程英語教育学専攻、英国レディング大学大学院修士課程応用言語学専攻を修了。後に同大学より博士号取得。1988 年より東京外国語大学、現在に至る。専門は、言語テスト論および言語能力評価枠組み。

概略：テストの透明性の程度は、テストによって様々であるが、日本における英語のテストの透明性は決して高いとは言えない。テスト・スペックや採点基準はもちろんのこと、テストの分析結果も明らかにされることはほとんどない。そのために、その実態を巡って様々な推測が起こっている。そうした推測は、受験者自身によってなされるのはもちろんのこと、学校の教師、過去の受験者、塾・予備校、出版社などによってもなされている。受験者の多くはナイーブにもこれらの言説を信じる傾向にあるが、その言説が真実とは限らない。

この講演においては、代表的な英語のテストがどう捉えられ、それがどのような英語の学習を促進しているかについて、明らかにする。

企画ワークショップ① **Excel を使った t 検定**

Invited Workshop 1: Using MS Excel for Performing a t-test

講師：水本 篤先生 (関西大学外国語学部・外国語教育学研究科)

HP: <http://mizumot.com> Twitter ID: @MizumotoAtsushi

略歴：関西大学外国語学部・外国語教育学研究科准教授。専門は語彙学習、学習方略、言語テストング、測定と評価。主な著作は『外国語教育研究ハンドブック』(2012, 松柏社, 竹内理氏との共編著)、『Exploring the art of vocabulary learning strategies: A closer look at Japanese EFL university students』(2010, 金星堂)。論文は語彙学習方略、自己調整学習、統計手法に関するものが多い(詳細は HP を参照)。

概略：本ワークショップでは、『外国語教育研究ハンドブック』(2012, 松柏社)の内容に基づき、外国語教育研究でよく使われている統計解析のうち、t 検定に焦点を絞って説明します。また、実際にデータを Excel で分析し、基本的な分析を実習形式で行います。発展編として、効果量、検定力分析(参加者人数を先に決める方法)などについても可能な限り説明します。より良い分析方法、結果の提示方法を学びたいという方はぜひ参加してください。

企画ワークショップ② **オンラインで利用できるツール (ANOVA4) を使った分散分析 (ANOVA)**

Invited Workshop 2: Using an Online Tool (ANOVA4) for Performing Analysis of Variance (ANOVA)

講師：今尾 康裕先生（大阪大学言語文化研究科）

略歴：大阪大学言語文化研究科講師。専門は、言語テスト・評価法、英語教育、アカデミックライティング。コーパス分析アプリケーション「CasualConc」、文字起こし補助アプリケーション「CasualTranscriber」、統計環境 R の GUI フロントエンド「MacR」など、Mac 用のアプリケーションを開発。

概略：t 検定では扱えない平均値の群間差の検定に利用する ANOVA に関して、t 検定のワークショップに引き続き、『外国語教育研究ハンドブック』（2012, 松柏社）の内容に基づいて、t 検定との違いなどにも触れながら説明します。実習では、「ハンドブック」で使われたデータを中心に、オンラインで無料で利用できる「ANOVA4」を使って分析します。興味のある方はぜひ参加してください。

特別企画 **英語能力テスト最新事情**

Special Event: Recent Trends in English Proficiency Tests

近年、新しい英語能力テストが次々と開発されていますが、その形態はペーパーベースのものだけではなく、パソコンや電話を介するものなど様々です。そこで、本大会の「英語能力テスト最新事情」と題する特別企画では、下記各社に 20 分程度の発表を行っていただき、それぞれのテストの構成や特徴などについてお話いただくことになりました。ブレースメントテストとしても使えそうなもの、中級、上級学習者のスピーキング能力測定に適したものなど、内容やレベルも様々ですので、「うちの学生には一体どんなテストが合っているの？」とお迷いの方は是非お越しください。

参加企業名	テスト名
アルク教育社	T-SST (Telephone Standard Speaking Test)
NEC ラーニング	英語コミュニケーションテスト OPIc
教育測定研究所 (JIEM)	CASEC
国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部	TOEFL Test
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)	TOEIC Test, TOEIC Speaking and Writing Tests, TOEIC Bridge Test
G-TELP 日本事務局	G-TELP
日本英語検定協会	BULATS, IELTS
ピアソン・ジャパン株式会社	VERSANT™
VELC 研究会事務局（金星堂内）	VELC Test